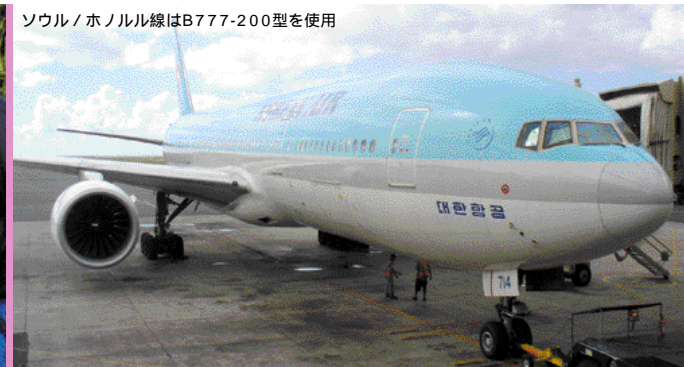




Destination Watch

Hawaii

KE新潟支店は11月にハワイ州観光局と共同で研修旅行を実施



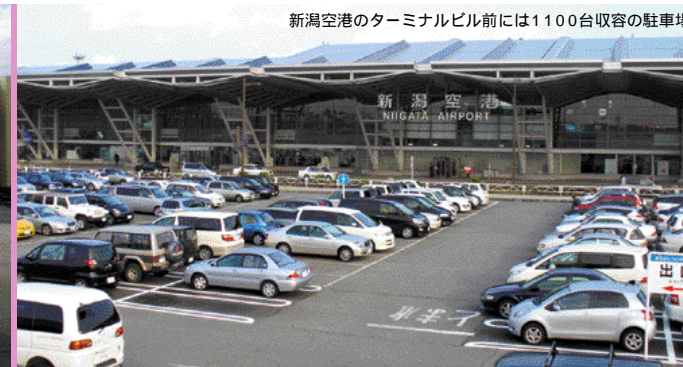
ソウル/ホノルル線はB777-200型を使用



乗継時間を使って伝統文化の無料体験ができる



無料観光ツアーにはブルコギの昼食が付く



新潟空港のターミナルビル前には1100台収容の駐車場



大韓航空(KE)の新潟/仁川線は韓国入客の利用も多い



空港内のKEカウンターで市内観光の申し込みなども



KEのビジネスクラス・ラウンジ



免税品店の充実ぶりはアジア最強と言われる



機内食のビビンバは日本人にも人気

ソウル経由 ハワイツアー体験記

KEが新潟発着のプロモーションを強化

この10月にユナイテッド航空が関西/ホノルル線を運休、来年3月にはコンチネンタル航空が中部/ホノルル線からの撤退を予定するなど、日本とハワイを結ぶ直行便は減少の傾向にある。こうしたなか、地方都市発着のハワイツアーで注目を集めそうなのがソウル乗継便だ。今年4月に仁川/ホノルル線をデAILY化した大韓航空(KE)は、10月からは新潟発着ソウル経由ハワイ線の需要喚起を狙い、地元旅行会社9社と共同でプロモーションを展開している。同路線利用のハワイツアーを体験取材した。

文・写真/西村健太郎

ハワイ5日間で4万9800円

KEの新潟/仁川線は当初、仁川空港を午前に出発し午後には新潟で折り返す「クイックリターン便」で、ハワイ線の同日乗り継ぎができなかった。昨年4月のスケジュール変更後は、新潟を9時25分に出発し仁川に11時55分着。復路は仁川17時40分発、新潟着19時40分となり、仁川から同日に乗り継ぐピヨンド商品の組み立てが容易になっている。

一方、KEの仁川/ホノルル線は今年4月にデAILY化されたばかり。仁川発が20時ちょうど、ホノルル発の仁川着は16時35分で、新潟発着便だけでなく福岡や岡山からも同日乗り継ぎが可能だ。

KE新潟支店は今年10月28日の冬期スケジュールから、初めて仁川経由ハワイ線のプロモーションを開始した。地元本支店を置く旅行会社9社と共同で新潟発着のハワイ商品造成に力を入れている。新潟発着ハワイ5日

間(ホテル指定なし)の最低価格を4万9800円に設定し、インパクトのある価格を打ち出すとともに、地元テレビでの特別番組やCM、新聞広告を使ったPR活動を展開している。来年3月までに1000人の集客を達成したい意向だ。11月にはハワイ州観光局と共同で、地元旅行会社のハワイ担当者を対象にしたセミナーとファミツアーも実施した。

新潟発着商品の最大のポイントは、その利便性だ。新潟空港は交通の便が良い空港として知られており、新潟駅前からバスで約25分、タクシーだと20分で着く。空港ターミナルビルの正面には約1100台が収容可能な駐車場を完備。料金は普通車で24時間当たり800円。成田空港や関西空港に比べると3分の1以下という駐車料金のため、自宅から空港へのマイカー利用が気軽にできる。加えて、成田や関西、中部空港では2000~2500円程度徴収される空港使用税がかからない。入国や税関審査の際の待ち時間がほとんどないことも利点だろう。実際、今回の取材の際も出発90分前に空港へ到着したが、時間が余るほどだった。

無料のソウル市内観光も

KEの新潟/仁川線は日本航空との共同運航便。使用機材は188人乗りB737-900型機で、新潟発着の国際定期便では最多の定員数となる。「成田に飛んで東京を観光した後、帰路に新潟近隣の温泉に立ち寄り、ソウルに戻るオープンジョー型の韓国人旅行者が目立ってきている」

(KE新潟支店旅客販売・岸篤係長)という。

仁川国際空港の到着は11時55分、ホノルル便の出発時刻は20時。8時間の待ち時間がある。トランジットエリアで過ごす場合は入国手続き不要だが、市内観光を楽しむ場合はいったん韓国に入国しなければならない。新潟発着のハワイ商品では、5人以上の参加が見込まれる場合にKEが無料で日本語ガイド付きの市内観光ツアーを提供している。基本コースは、空港からソウル市内に出て焼肉の昼食後、大統領官邸の青瓦台などを車窓観光するという内容。要望に応じてカスタマイズも可能だ。南大門市場や明洞観光を加えても、十分に時間の余裕がある。これ以外にも同空港から2時間のカジノ・空港周辺コース(有料)4時間の仁川市内コース(同)6時間のソウル市内コース(同)など、各種トランジットツアーが催行されている。空港からシャトルバスで2分の場所にあるハイアットホテル内のゴールドゲート・カジノで楽しむものもい。

トランジットエリア内には、ソファやインターネットコーナーを備えた無料のラウンジが設置されているほか、6時間単位で利用できるトランジットホテル、有料のマッサージ室やシャワー室も完備。無料で韓国の伝統工芸品の製作が体験できる伝統文化体験館や免税品店、フードコートなどを巡って過ごすのもお勧めだ。仁川空港のトランジット設備の充実ぶりには定評があるだけに、8時間という長い待ち時間もさほど苦にならない。

仁川/ホノルル線は301人乗りのB777-200型機を使用。コンチネンタル航空、デルタ航空との共同運航便となる。ソウル/ホノルルの所要は往路7時間半だが、復路に約11時間を要するのが難点か。ただ、機内食にビビンバがサーブされるなど、韓国発着便ならではの楽しみもある。

地方都市発着に大きな期待

ソウル乗り継ぎのハワイ商品について、新潟本支店を置く旅行会社の見方はさまざま。あるハワイ担当者は「ハワイだけが目的のお客様には勧めにくい」と、ソウルでの待ち時間の長さを指摘する。「ソウル観光よりも、乗り継ぎ時間をいかにゆったり過ごしてもらえるかを考えるほうが先決ではないか」と、地元旅行会社の担当者との

意見もある。KE新潟支店では現在、ツアー参加者が仁川空港のビジネスクラス・ラウンジを無料で使えるよう検討を進めるなど、乗り継ぎ時間のハンデを克服していく考えだ。

一方、「ハワイへ行く前にソウル観光も楽しめるので、アクティブな旅行者には喜ばれている(大手旅行会社の担当者)という声や、「地元の新潟空港発着というのは、とにかく大きなメリット。特に熟年世代に訴求するうえで大きな強みとなる(地元旅行会社の担当者)など、前向きな感想も聞かれた。

KEでは新潟発着のほか、同日乗り継ぎが可能な福岡、岡山でも需要喚起を図ろうと、地元旅行会社とのタイアップを推し進めている。ハワイ州観光局も「減便などの話題が多いなかで、積極的に地方都市からのハワイ路線を売ってもらえるのは有り難い(塚本佳子セールスマネージャー)」と、KEのソウル乗継便に期待を寄せている。

新潟発着ハワイ商品のスケジュール

新潟	ソウル
9:25 (KE764)	11:55
ソウル	ホノルル
20:00 (KE051)	8:35
ホノルル	ソウル
10:35 (KE052)	16:35+1
ソウル	新潟
17:40 (KE763)	19:40

Topics

初のフラ・カンファレンス開催 参加者の3分の2は日本人

第1回国際フラ・カンファレンスが11月15~17日、ホノルル市内のハワイコンベンションセンターで開催され約500人が参加した。3日間のワークショップや講義を通じてフラのすべてが学べるイベントで、ワイキキ地区のホテルやレストラン、小売店などがメンバーのNPO法人ワイキキ・インクルーブメント・アソシエーション(リクイゲット会長)が今年初めて開催した。

現代フラのアウトアナをはじめ、古典フラのカヒコ、詠唱のチャントに加え、レイやウウイ(楽器)作りなど、ハワイを代表する著名なクムフラ(フラ講師)30人から直接に指導を受けられるという貴重な場だ。講座の終了後にはホワイヰ(発表会)先設けられ、ワイキキの各ホテルの特設ステージなどで成果が披露された。日本のフラ教室の講師や生徒らがグル



著名なクムフラから直接指導を受けられるとあって、多くの日本人が参加した(アウトアナの中級クラスで)

ープで訪れるなど、全参加者のうち日本人が約300人を占めた。ワークショップでは日本語通訳が付くことから、来年以降も日本人の参加者が増えそうだ。第2回は来年11月13~15日に同所で開かれる。詳細は日本語ウェブサイト(www.waikihulaconference.com/jp)で。